

輝かしい未来に向けて

校長 岡田 哲

3月8日（金）、早朝の春の淡雪が降る中、第47回卒業証書授与式を挙りました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、5年ぶりに千葉県教育委員会をはじめ、地域の皆様や卒業生のご家族、在校生もご臨席もと、165名の卒業生は、力強く、新たな世界へ巣立っていきました。

卒業生代表からは、コロナウイルス感染防止対策のもと、中学校3年間で常に前を向き学習や様々な行事、そして仲間との絆を深めることができたこと、また、家族へ感謝の気持ちや困難な壁を乗り越えていこうとする決意の言葉を聞くことができました。

卒業証書授与式に先立ち、3月1日（金）、3年生を送る会を実施しました。1、2年生が心を込めて感謝の気持ちを先輩に伝えることできた心温まる会となりました。

また本日、3月25日（月）、令和5年度の修了式を実施しました。1年生168名、2年生142名が、それぞれの課程を修了しました。

改めて、1年を振り返ると、一人一人の生徒が、みつわ台中学校の生徒として、成長し、先輩から後輩へ伝統を引き継ぎ、大きく発展させることのできた1年だったと実感しています。

「雪に耐えて、梅花麗し」式辞の中で、卒業生に向けた言葉です。桜や梅などの春に咲く花は、冬の寒さが厳しければ厳しいほど、美しい花を咲かせるという意味です。卒業生だけでなく、子どもたちが将来生きていく上で、辛く苦しい時が必ず訪れます。時には、大人が見守り、支えることは大切だと思われませんが、自ら、耐え忍び、困難を乗り越えようと努力することで、子どもたちの未来は一層明るく、輝かしいものになると信じています。

終わりに・・・

保護者の皆様、地域の皆様には、この1年間の本校の教育活動を温かく見守るとともに、ご理解、ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。4月5日（金）、新年度がスタートします。教職員一同、気持ちを新たに、心を込めて教育活動に努めてまいりますので、一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

より良い、みつわ台中学校を目指して

校長 岡田 哲

ついこの間、2024年の幕が開いたらと思ったら、もう2か月が過ぎようとしています。本年度も残すところあと1か月となりました。生徒一人ひとりが本年度をしっかりと省みて、新たな希望を持って新年度が迎えられるよう、教職員一同支えてきたいと考えています。

さて、学校評価におけるアンケートにご協力頂きましてありがとうございました。先に行われた学校評議委員会において、学校評価アンケートの集計結果を基に、分析した内容についてご意見をいただきました。温かいお言葉等も多数いただきましたが、学校として反省すべきこと、気づかなかったこと等もお言葉をいただきました。全職員に周知し、次年度に生かすべく各部会にて話し合いました。今後の学校経営に活かしていこうと考えております。集計結果は、ホームページに記載しておりますのでご覧いただければと考えます。ここでは、分析結果を記載させていただきます。

○学習について

- ・職員、生徒、保護者は「わかりやすい授業づくり」を行っている。しかし、内容を理解できていると、生徒は感じているが、職員、生徒、保護者は不十分だと感じている。そのため、より知識・理解が深まる授業づくりを考えていく必要がある。

- ・上記に加え、家庭学習への取組にも力を入れていく必要がある。近年、ギガタブを用いた学習が増えており家庭学習の在り方を教職員が積極的に工夫し、生徒・保護者の理解を深め取組むことで学力向上を図る。

○生活について

- ・生徒は楽しく学校生活を送っていると感じている。生徒が自身の課題を把握し、より明確な目標をもつことができると、さらに学校生活が充実し、生徒の成長につながると考えられる。
- ・決まりやルール、マナーや公衆道徳について職員と生徒・保護者との間に認識の開きがある。公園の使用や下校時の様子で地域の方から注意を受けているので、道徳教育にさらに力を入れたい。
- ・ボランティア活動は、後期に落ち葉掃き活動やコンタクトレンズの空ケースの回収などを実施したため、前期よりも数値は上昇している。自然とボランティアができる雰囲気醸成するため、引き続き生徒会活動をより活発に取組ませたい。

○アンケート全般について

- ・今年度は「思いやりのある学校づくり」を掲げて教育活動に取組んできたが、その成果が数値に表れてきたのは喜ばしい。今後も日々の学校生活や行事を通して、他者を思いやる心を育てていきたい。
- ・保護者の数値が前期に比べ後期の方が上昇傾向にある。学校教育への協力と理解が深まったと考えたいが、確かな数値に基づいた検証を行いたい。そのためにもアンケートの回答率をあげるための方法を考えていきたい。

配布：1/31

Society5.0をたくましく生きるために

校長 岡田 哲

早いもので新年が明けから1か月が過ぎようとしています。遅ればせながら、2024年が生徒、保護者、地域の皆様、教職員にとって、実り多き一年となりますことを願っております。その一方で、元旦に発生した「令和6年能登半島地震」によってお亡くなりになられた方々とそのご家族に対し、深い哀悼の意を表します。また、被災された皆様に、心からのお見舞いを申し上げますと共に、被災地の一日も早い復興を心より祈念いたします。

さて、狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)という人類がこれまで歩んできた社会に次ぐ、5番目の新たな社会を Society5.0 と言い、聞きなれて久しくなりました。この社会は、デジタル革新とイノベーションを活用することで実現する社会と言われています。

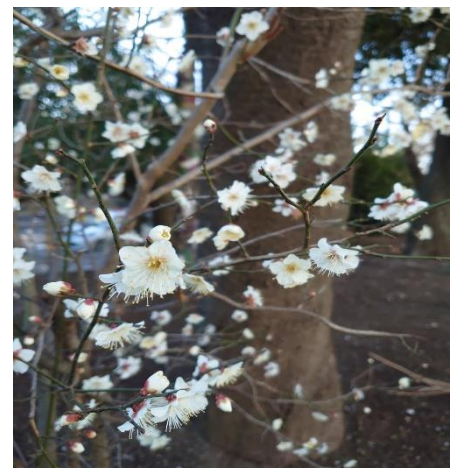
令和に生きる子ども達は、生まれた時から、パソコンやスマートフォンなどが身近にあり、インターネットを使ったゲームやSNSなどを自由自在に使いこなして成長しています。ビデオや画像などが簡単に手に入りやすく、自らの興味・関心に応じて様々な知識を身につけることができます。

一方で、信頼性の低い情報を鵜呑みにしたり、顔が見えない相手との通信等で危険な状況に追い込まれたり、通信方法を間違えて大切な友だちからの信頼を失うなどの負の部分も多くあります。さらに、多くの人と話し合い協働することが苦手で、知識はあるがコミュニケーションがうまく取れず人間関係を築く力が身につかず大人になってしまうことも心配されます。

令和の時代は、これまで人類が培ってきた文化や伝統に加えて、新たな価値観やものが次々に創り出されると考えられます。AIが出現し私たちの生活が予想を超えるスピードで変化していくと言われています。

こうした時代を生きる子ども達には、コミュニケーション能力と自らの考えを発信できる言語力が必要であると考えます。そのために、多くの体験を通して確実な知識や技能を身につけ、様々な人と関わり、価値観や考えに触れ、深く考えることが大切だと考えます。

これまで培ってきた良さを継承し、新しい環境の中でみつわ台中の子ども達がたくましく幸せに生きるために必要な能力を育てていきたいと



考えますので、みつわ台中学校の教育に対し、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願いたします。

【校門側の梅の木に花が咲きました】

配布：12/22

『 行く年 来る年 2024 年はどんな年に!? 』

校長 岡田 哲

2023 年が、まもなく終わろうとしています。振り返ると様々なことがあった 1 年でした。皆様ほどのような 1 年でしたでしょうか。今年 1 年を振り返ると、国内では車いすテニス競技の国枝さんの国民栄誉賞受賞、侍ジャパン WBC で世界一、新型コロナが 5 類へ移行、記録的な猛暑、将棋の藤井さん初の 8 冠等。世界に目を向けるとトルコ・シリアやモロッコで・アフガニスタンでも大地震発生など、目まぐるしい出来事が多々ありました。

中学校生活においても、修学旅行を始めとする旅行行事、体育祭や合唱コンクール、職場体験や授業参観・バザー、定期テスト等、様々な場面で「思いやり」のある姿が多くみられた 2023 年でした。

もうすぐ新しい年を迎えます。2024 年の干支は、「辰」。干支は、本来、植物の状態を意味するものだったそうです。「辰」は、草木が成長し、形が整い、活気にあふれている様子を表しており、これからの成長をさらに形作っていく年だといえます。また、十二支の中で辰だけが架空の生き物です。これは、辰は古代中国では身近な生き物で、実在されていると考えられていました。権力の象徴とされており、中国でも縁起の良い生き物とされています。そのため、架空の生き物ではありますが、十二支の中に含まれているようです。加えて、辰年のことわざに、「竜の水を得る如し(りゅうのみずをえるごとし)」があります。強いものが一層勢いを得ることです。竜が水を得て昇天するように、強いものがさらに強くなるという意味です。2024 年は、様々な場面で、思いやりの心をさらに磨き、さらに強いものにしていきたいと思えます。

保護者の皆様、地域の皆様には、この 1 年、様々な面で本校の教育活動にご協力、ご支援をいただき、感謝申し上げます。新しい年も、教職員一丸となり、信頼される学校づくりに一層努めてまいります。

配布：11/30

「思いやりのある学校づくり」校外学習編

校長 岡田 哲

立冬が過ぎても、暖かい日々が続きましたが、このごろやっと外の空気が冬の顔を感じさせ、どんぐり公園では銀杏の木々が黄色く染まり、中庭の紅葉も紅く色づいています。

3 年生にとっては、いよいよ自らの進路希望を具体的に決定していく時期になり、これまで以上に日々の授業に真剣に取り組む姿が見られます。

11 月は、1 年生、2 年生共に校外学習を実施しました。2 年生は、14 日(火)から 16 日(木)に 2 泊 3 日の日程で群馬県の赤城青少年交流の家での自然教室を実施しました。野外でのカレー作り、アドベンチャーラリー、キャンドルサービス、レク大会など、学校では体験できない活動に精一杯取り組む姿が見られました。学年の生徒が寝食を共にすることで、多くのことを学んでくれたと思います。スローガンは、「みんなの力で作り上げろ!喜怒哀楽合戦」。初めての宿泊学習であり、様々な気持ちがぶつかり合う中で、みんなで仲良く、人間関係をより良くしていきたいという思いが込められていました。みつわ台中学校の中核として、一回りも二回りも成長した姿が見られました。



1 年生は、28 日(火)に、鎌倉での校外学習を実施しました。当日は、快晴、穏やかな気候で、色鮮やかな紅葉も見ることができました。班で決めた計画に基づいて、鎌倉の歴史や文化に触れるとともに、互いに協力することや係の責任を果たすことの大切さを学んでくれたと思います。お土産を買い、集合した鶴岡八幡宮では、たくさんの笑顔を見ることができました。スローガンの「一致団結・人との協力・三配り ~いい国学ぼう鎌倉幕府~」に込められた、校外学習を

通して学び、より充実した学校生活を送ることを目指した1年生の気持ちを強く実感することができた一日でした。

配布：10/31

校長室から

「意識が変われば、行動が変わる、行動が変われば思いやりの心が萌芽する」

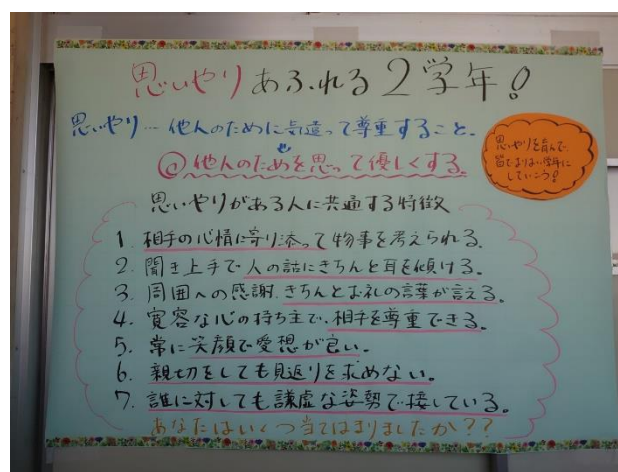
校長 岡田 哲

昨日、4階の窓から外に目を向けると、真っ白な雪をまとった富士山が見られ、早くも冬の装いを感じさせる季節となりました。

令和5年度後期も順調にスタートし、生徒は、学習や行事に意欲的に取り組んでいます。

私は、後期始業式の中で生徒たちに「思いやりの心」を「見える化」してみませんか？という、投げかけをしました。「思いやり」とは、具体的な成果として目にするのは難しいと思います。成果としての「見える化」ではなく「思いやりの心を育むための意識した行動をしてみよう」という意味です。

思いやりの心を意識した行動であれば、なんでも良いのではないかと考えます。例えば、正門の横の掲示用のガラスケースに美術部がイラストを掲示してくれました。(小学生や地域の方々が足を止めて見てくれていました。) また、2年生の廊下には、「思いやりあふれる2学年」と生徒たちに訴えかける掲示物を作成してくれました。生徒・教職員一人ひとりが意識して取組めば、必ず行動として変化が見られます。その、変化が心の成長に繋がるよう、全教職員が一丸となって教育活動に取り組んでまいります。



合唱コンクールを実施しました

10月27日(金)、本年度は青葉の森公園芸術文化ホールにて、合唱コンクールを実施しました。今年度のスローガン「歌鳥風月 ～心をひとつに!きれいな歌声ひびかせろ」各学級が、心を一つにして、素晴らしいハーモニーを大きなホールいっぱい響かせてくれました。当日を迎えるまでに様々な課題を克服しながら当日を迎えたと思います。時には、意見のぶつかり合いもあったとは思いますが、それを乗り越え、各学級共により美しく、より表現豊かな思いやりのある歌声を聴かせてくれました。

配布：10/05

飛躍ある後期に! がんばれみつわの子らよ

校長 岡田 哲

朝夕の風が秋の訪れを感じさせる季節となりました。生徒たちの明るい笑顔やセーフティーウォッチャーの方々と一緒に朝の挨拶運動に取り組む姿。また生徒会役員選挙に向け、選挙活動をする役員候補や応援する生徒のはつらつとした様子は、一日のはじめに元気を与えてくれます。

さて10月5日(木)は前期終業式です。今年、「いじめのない、思いやりのある学校づくり」をテーマに掲げて学校運営に取り組んでいます。前期では、学校行事や授業・部活動など、様々な場面において少しずつではありますが思いやりのある行動が見られました。後期では、授業参観やPTAバザー・合唱コンクール・1年生の校外学習・2年生は自然教室。そして、3年生はいよいよ進路決定に向けた動きが活発になってきます。

では、「思いやり」とはどのような事を指しているのでしょうか。「思いやり」とは調べると、他人のために気遣ったり同情したりする気持ち。「相手の立場になって考える人」、「相手の立場になって考える人」、「相手が快適に過

ごせるように振舞える人」一言でいうと、「思いやり」＝「目くばり」、「気くばり」、「心くばり」（4つの「り」）を行動に移せる人ではないかと考えます。しかし、「言うは易く行うは難し」で、そんなに簡単ではありませんが、意識して行動しなければ何も変わりません。5日間の短い秋季休業後の11日（水）からは後期を迎えます。それぞれの学年、そして一人一人が、それぞれの場面で「思いやり」の心を育み、さらに飛躍する後期にしてほしいと願っています。がんばれみつわの子らよ。

《今、ボランティア・スピリットが芽生え始めています》

過日、部活動の時間にほうきとビニール袋を持って校門を出る生徒たちを見ました。男子バスケットボール部の生徒たちが、二丁目公園のごみ拾いをしてくれていました。その姿を見て、小学生が手伝ってくれたり、地域の方々が温かい声をかけてくれたりしてうれしかったという感想を教えてくださいました。バケットボール部だけではなくありません。野球部は朝の落ち葉合いをしたり、セーフティーウオッチャーさんたちと朝の挨拶運動をしています。夏休みには、剣道部や合唱部がトイレ掃除や草取り、公園の掃除等してくれたり、ソフトテニス部が校舎内の床磨きをしてくれました。生徒たちだけではなくありません。教頭先生は、歩道にせり出した木々を伐採し、大雨の際、グラウンドの水たまりの排水に大汗をかきながら取組んでいました。ボランティアは、他人や地域のために、自主的・自発的に貢献していくものです。これは、思いやりの心にも通じる取組みだとも考えます。多くの生徒・職員がボランティア・スピリットを掲げた活動を行うことで、みつわ台中学校やこのみつわ台の地域がより良い地になっていくことを願っています。